

## 欧州議会選挙の結果とその余波

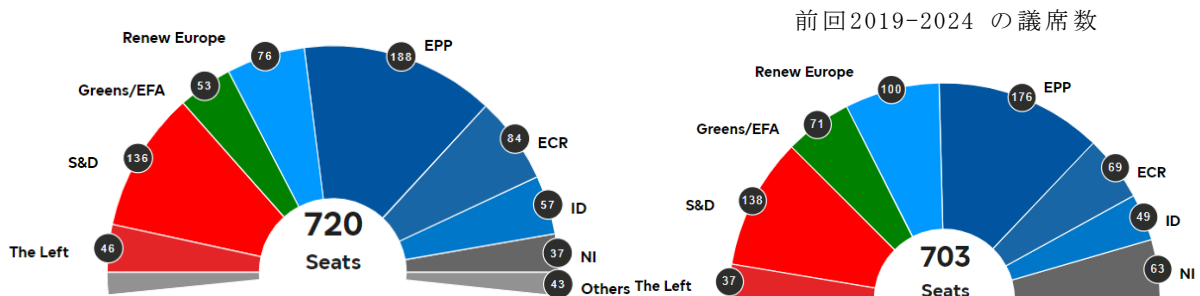
### ◆ 欧州議会選挙結果、中道右派が最多議席維持、極右躍進、環境政党沈む

2024年6月6日～9日に、欧州連合（EU）の主要機関の中で唯一市民の直接投票で決まる欧州議会選挙が実施された。5年毎のため、英国のEU離脱後初の選挙だ。加盟27カ国の各国のルールに従って実施され、総数720の議席はおおむね人口比で配分される。議会では、各国の政党名ではなく、主要政策や傾向の似た政党が「会派」を結成し活動する。

選挙結果は事前の予想通り、極右の躍進と緑の党の会派の激減となった。

親EUの中道系会派は総数では過半数を維持したものの、中道リベラルなどが議席数を減らした。暫定数値によれば、最多の会派は中道右派の「EPP」で188議席（26.11%）を占め、2番目は中道左派の「S&D」が136議席（18.89%）で、ここまでは前回と同様の順位となる。しかし今回は、メローニ首相率いる「イタリアの同胞（FDI）」などが所属する右派「ECR」が84議席（11.67%）で前回の5番目から3番目へ躍進し、さらに5番目にはフランスのルペン氏の「国民連合（RN）」などが所属する極右会派「ID」が57議席（7.92%）を占めた。会派には属さないがドイツの極右AfDも議席増となったため、全体では2割以上の議席を右派・極右系が占めた。親EU中道リベラルの「Renew Europe」は76議席（10.56%）で前回の3番目から4番目に転落し、緑の党などの会派「Greens/EFA」は53議席（7.36%）で前回の4番目から6番目に沈んだ。

欧州議会選挙 会派別議席数 2024-2029 （2024年7月5日時点暫定結果）



注：会派となるためには、少なくとも23人以上、7カ国以上からの選出が必要  
NI Non-attached Members

出所：欧州議会選挙結果

◆ 欧州議会選挙の結果は、フランスやドイツに飛び火

EU経済は、23年の実質GDP成長率が前年比0.5%、24年第1四半期は前期比0.3%と低迷が続く。インフレや移民の増加、農業分野や自動車・エネルギー分野などへの厳しい環境規制のなかで、一般庶民の不満が募っていたため、今回の欧州議会選挙の結果は、ある程度は予測されていたが、フランスでの国民連合の躍進は想定以上だった。このため、マクロン大統領は国民の真意を問うために、急遽下院の解散を決定した。ドイツも、国の政権を担う中道左派（SPD）と緑の党が大きく議席を減らしたため、ドイツ政府の連立政権の運営にも亀裂が生じている。特に旧東独地域では、ベルリンを除いて極右のAfDが最も多くの票数を得ており、今後の同地域の地方選挙を危惧する声が、産業界などからも上がっている。

冷静に欧州議会選挙の結果を見れば、スペインのように中道会派が前回よりも議席を伸ばしたり、スウェーデンでは中道左派や緑の党が健闘し左派系が過半数の票を獲得するなど、国ごとの傾向は異なる。しかし、EUの両雄のフランスとドイツ国内での政権が揺らぐと、EUの政策への影響は少なからず出てくるだろう。

◆ 欧州委員就任には欧州議会の承認が必要、環境規制などはブレーキがかかるか

EUでは主要なポストは、出身国や性別などを公平に扱うため、パズルのような人員配置が必要になる。欧州議会選挙の結果が注目されるもう一つの要因は、欧州委員会の委員就任には、欧州議会の承認が必要なことだ。欧州委員会は、各加盟国から1人ずつの委員で構成され、EUの方向性や法案の策定を行う重要な機関だ。特に欧州委員長はEUの代表として、G7などの会合にも参加する。現在はドイツ中道右派のフォン・デア・ライエン氏が務め、2期目を目指している。今回も中道右派のEPPは議席を伸ばし、順当にいけば欧州議会で承認されるが、グリーン・ディール、ウクライナや移民対応に反発する議員もおり、楽観は許されない。過去には欧州委員候補の承認が見込まれず、人を入れ替えたこともある。

EPP内では、環境規制緩和の検討が水面下で進んでいる。将来の脱炭素の目標はおろさないにせよ、たとえば自動車のEV化一辺倒への見直しが俎上にのっている。また、EU域内産業を支援し、域外への依存を軽減する方向に舵を切る。極右に投票した市民の本音は、理想ではなく今の自分たち国民の生活の向上に目を向けて欲しいというものだ。EUの中枢部がどう対応するのか注目だ。【赤山英子】